

## 第 1 回会社訪問【京都樹脂精工(株)】

6 月 18 日 於 京都樹脂精工(株)

生田産機工業(株) 竹内雄大

6 月 18 日(木)に第 1 回会社訪問(例会)を京都樹脂精工(株)様にて開催致しました。雨が降る中、38 名と多くの方にご参加頂きありがとうございました。

第 1 部は、樹脂製品の加工から組立業務をされている京都樹脂精工(株)様の会社見学をさせて頂きました。副社長、工場長のご協力を得て、3 班に分かれて工場を見学し、機青連企業では、なじみの少ない樹脂製品には、多くの関心が集まり、また長年に渡る技術の蓄積からのオンリーワン技術を見学させて頂きました。

第 2 部では、今期活動テーマの「共に悩み、友に和を」に添って、藤塚委員長の熱い思いから、目線を新入会員様に向けて、お互い腹を割って話し合いができるように、次のテーマで取り組みました。

「山下さん・生田社長対談！急な世代交代！生田社長が山下さんに語る！」とテーマを題して、若くして社長に就任された山下さんと境遇が似ている生田社長との対談の中に、先輩方の意見感想等を交え、参加者と共に思いを共有できるように取り組みました。

初めに、山下さんから会社紹介(経歴を含む)の説明を頂きました。

昭和 42 年に会社設立、今年で第 44 期を迎え、創業者は、3 名おられ、創業 1 年後に、先代(山下さんの父)が入社され、創業 17 年後に先代が社長に就任された。山下さんは、平成 18 年 10 月入社(2 年と約半年前)され、入社する意向は、当初はなかった。創業者がいたので、その方が後を継ぐと思っていた。山下さんは、前職に、コンピュータ関係の仕事を従事し、入社 1 年前に先代から会社と呼ばれ当時は、前職の仕事にやりがいがあったので、呼ばれたがすぐには、戻らなかった。入社を決断は、父親の後継ぎが廻りを見渡した時にいなかったで、入社を決断。父親からは、5 年から 10 年後に社長引継ぎを考えており、簡単に社長に就任と考えるなど言われていた。入社後、3 ヶ月は現場を担当し、2 ヶ月後(2006 年 12 月)客先への挨拶廻りを初め、一度顔を出した際には、顔をだして行かねばの思いに、営業に移行。父親は、2006 年 11 月ごろに癌が発覚、検査を続けて 1 ヶ月後によく癌だとわかる程度の初期の状態であった。その年の 12 月中に手術をして、順調に回復していった。その時に、5 年はしっかり勉強をさせて役職をつけようなどと話をしていた。手術後 10 日がたち、容態が急変し、2 日後にお亡くなりなられた。だれも(副社長も)予期していなく、年末に葬儀を行い、年末にもかかわらず多くの方に参列頂き、父親の偉大差を知った。突然であったため、その後どうしようか悩み、多くの方(客先、銀行、副社長、相談役、また親しくさせていただいている方々)に相談した。その中、お客様から山下さん本人に、社長にとの指摘があり、副社長からも山下さんが社長にとの後押しもあり、現在社長に就任し、1 年半経過し、現在に至り、この大不況をどうやってのりきろうか考えているところである。

続いて、山下さん、生田社長対談に移り、先輩方のご意見を交えながら、山下さんの涙には、多くの方も共感されたと思います。

「生田社長」：工場見学をさせて頂き、技術の蓄積にいい会社だと感じたし、工場長に丁寧案内してもらい、若い社長を支える、本当にいい会社だと感じた。社員もたくさんおられ、売上が 6 割減であっても、28 歳の若い社長を支える思いが、社員だれ一人辞められていない。38 歳の時に、社長に就任したが、それでも 10 年、先代と共に、一緒に働いていたし、機青連にも入り、色々勉強させてもらい、恵まれていた。社長就任後も、古い社員さんが先代にお世話になったから、その息子を助けてやろうとの思いを感じたし、山下さんの立場も同じだと思う。

「山下さん」:何を大事にしなければならないのは、自分のところに来て、なんとか支えてやろう一人前に成長するまで、社員みんなと言って頂いた。会社のために、誰かのために、役に立てるように、父親は、家庭では、わからなかったが、会社に来ると多くの人の支えがある人、人を大切にすること、誰かのためにやることで、まわりが付いてきてくれると感じたし、人を大切にしていくこと大事だと思っている。

「生田社長」:人の能力が低くても、人を切るのではなく、人を大切にし、相談役の息子さん(創業者の息子46歳)がいながら、まだ会社に戻り1年であっても、社長に就任したのは、先代の思いが、社員に伝わり、社員が支えているからで、今の状況であっても、精一杯社員を支えていき、社員68名全員を支えていくことが大事でないか。

「山下さん」:今後は、風土は変えずに、先代がやってきた人とのつながりを大切にしながら、誰かのために、お互いを相談しあえるような会社にしたいと思う。

「生田社長」:過去にない大赤字をだしたことがあった。現場経験なし、図面はかけないし、自信がなかった。その当時は、現場の残業代をカットし、会社の雰囲気は怖かった。機青連で刺激をもらい、機青連の先輩方からの教えが心の支えになり、会社の強み、自分の弱さを客観的に見つめ、会社の強み、自分の立場を見つめて、10名位、中途採用し、中国進出した。大反対があり、自信がなかったが、機青連があつて、今となってよかったと感じている。厳しい時期は、自分が採用した若い社員に詰め寄られて、1人は辞めたが、残りは現在も残り、会社を支えてくれる。その時は、古い社員(先代からの)が、「社長、楽になるよ、また支えてやるよ」言ってくれて、口先だけで、若い子を支えてやれてなかった。いろんな経験が気付かせてもらう。「気付く」これが機青連で、よそでは聞けない。これが良さで、こうして山下さんと腹割って話しをしてくれるとまた勉強させて、また気付かせてもらうこともある。

対談に交えながら近藤さん、今井さん、木村さん、南郷さん、高木さん、飛永さん、吉岡さん、辻さんからも貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。機青連らしさ、人とのつながり、思いを共有し、気付きがあり、お互い成長し、会社に持ち帰り生かす。熱い思いを深く感じることができました。

最後に、会社訪問委員会 藤塚委員長から感想を頂き、機青連らしい熱い例会で終了致しました。厳しいことを言われ続けてきた。最初は、まわりがヨイショをしていると思っていたが、実際は、厳しい、きついプレッシャーを受けていることに気付いた。昨日お風呂を山下さんと一緒に入り、語らせてもらい、会社訪問がなければ、これだけ腹を割って話すことがなかったし、また親密になることがなかったと思う。いつも機青連を通じて、自分に気付きがあり、会社に持ち帰り、共有していく。

以上

